

よく考え、すすんで学習する子供の育成

～「活用学習」と「学級力向上」をもとにした言語活動の充実を目指して～

I 主題設定の理由

昨年度の研究は、山梨市学力向上推進委員会の考えを元に、本校の算数科の課題である、筋道をたてて考える力、記述して説明する力、判断する力を身につけるための手だてとして活用学習を取り組んできた。さらに確かな学力を支える手だてとして学級力向上の取組も研究してきた。今年度は、昨年度の研究の成果を生かし、さらに本校の課題もふまえ、言語活動の充実を進めるために学級力向上プロジェクトを全体研究として取り組み、新しい「学習指導要領」に対応した算数科を中心とした活用学習の教材化に取り組むことにより、テーマに迫ることとする。

II 研究仮説

学級の学習環境を整えることと活用学習の場面を設定し言語活動を充実させることで、よく考え進んで学習する子供が育成できるであろう。

III 研究の具体的な内容と方法について

1 学級力向上に向けた研究

- ①学級力向上プロジェクトについての学習会
- ②学級力向上を活用した実践（全学級）
- ③学級力向上を活用した実践交流（全学級）
- ④Q Uを生かした学級分析と省察

2 活用学習

- ①活用学習についての学習会
- ②活用学習の教材化
- ③活用学習の授業実践

IV 研究実践

1 学習会

「アクティブラーニングについて」

講師 峡東教育事務所 主幹・指導主事 竹川 和彦 先生

2 検証授業

- (1) 第4学年 算数科授業実践「割り算の筆算を考えよう」

授業者 島田 直美

(2) 第2学年2組 算数科授業実践「九九をつくろう」

授業者 青山 友香

3 学級力向上のためのミーティング

全学級の実践を基に、スマイルミーティングを実施した。

4 一人一実践(授業改善プラン)

算数科(2, 3, 4, 5, 6年) 国語科(1年) 理科(5年)

自立活動(1, 2, 3, 5年) 保健指導(全校)

5 ミニ実践交流(実践例)

- ・学級力向上プロジェクトについて
- ・筆順指導
- ・家庭学習の実践例
- ・Q Uの活用
- ・アドラー心理学
- ・食教育の視点
- ・正しい発音を練習しよう
- ・情報教育における簡単な教材開発について
- ・誉め言葉のシャワー
- ・言葉のキャッチボール

V 成果と課題

1 成果

研究の成果については、学級力向上プロジェクト、活用学習についての理論研究、ブロック研究をもとに2回の検証授業、スマイルミーティングを実施できたことは大きな成果である。

活用学習については先行研究を基にブロック長を中心に理論研究、教材研究を行い、活用学習の考え方を校内研究に広げることができた。テーマにある言語活動の充実という視点に立ってみると2つの検証授業の中にも多くの書く活動を取り入れ、子供たちが自分の考えを書き、説明する活動を行う様子からテーマに迫ることができたと考えられる。

学級力向上については、全学級が学級力向上プロジェクトに取り組んだ。各学級の実践を基に、スマイルミーティングを実施し、学級力向上のための手だてについて共通理解をはかり、検証することができた。

2 課題

研究の課題については、基礎学力の定着が挙げられる。ここ数年、考えを書くことを中心に研究を進めてきたことで、その成果は見られる。しかし、その土台となる基礎学力に課題があるため、考えを書くことに困難さを感じている児童が見られるのも事実である。自校の児童の実態を適切に把握し、それに即した研究テーマで研究を進めていきたい。

(研究主任 松岡 めぐみ)